

# 令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	企業組合劇団風の子九州
公演団体名	劇団風の子九州

内容
<p>* 出演場面の練習が主になるので、主人公と同学年の4年生に参加してもらいます。</p> <p>ワークショップの流れ</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 劇団の自己紹介をします。</li><li>② リラックスするために最初にちょっとした表現ワークをします。</li><li>③ お芝居のあらすじを紙芝居仕立てで話します。</li><li>④ ニグループに分かれます。可能であれば別々の場所での練習。<ul style="list-style-type: none"><li>☆ 場面①チーム 選抜の6名ほどと、劇中に登場する花や虫等の身体表現の練習をします。</li><li>☆ 場面②チーム エンディングの歌とダンスの練習をします。 (ちなみに、場面①チームはこの日は歌とダンスの練習は出来ませんが、後日学校で練習して公演当日、出演することは可能です。)</li></ul></li><li>⑤ 最後に、お互いのチーム毎に、この日の練習の成果を見せ合います。</li></ol>

タイムスケジュール（標準）
<ol style="list-style-type: none"><li>① ゲーム遊び 15分</li><li>② あらすじ説明 15分</li><li>③ 稽古、製作指導 55分(途中休憩有り)</li><li>④ 発表</li></ol> <p>* 3校時、4校時を使わせてもらいます。</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
4人 内訳：場面①指導 2人、場面②指導 2人

学校における事前指導
<ol style="list-style-type: none"><li>① 出演場面のDVDを鑑賞してもらい、イメージを膨らませてもらう。</li><li>② テーマソングを覚えておいてもらう。</li></ol> <p>※事前ではありませんが、ワークショップ時にご担当の先生に振付を録画していただき、練習の際にご活用いただけますようお願いいたします。</p>

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	企業組合劇団風の子九州
公演団体名	劇団風の子九州

<b>演目</b>
やだ、やだ あっかんべー！  作・演出 / あさのゆみこ 音楽・効果 / 曲尾友克 美術 / あさのゆみこ 公演時間( 75 分)

<b>派遣者数</b> ※派遣者数の内訳を御入力ください
4人 内訳：出演者4人：感染対策スタッフも兼ねます。

<b>タイムスケジュール（標準）</b>					
前日仕込み( 無 ) 会場設営の所要時間( 2 時間 30 分程度 )					
到着	仕込み	リハーサル	本番	撤去	退出
8:30	8:30～11:00	11:30～12:15 午前 4 限目	13:30～14:45 午後 5,6 限目	15:00～17:00	17:00
↑					
*4 時限目に出演する子どもたちとのリハーサルが入ります。					
※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時 30 分からの概ね2時限分程度です。					
*午前公演(前後の日程により可能)の場合は、前日3時間程度の仕込、 当日は、1 時限目リハーサル、3,4 時限目本番、15:00 搬出完了					
<b>*別日でのワークショップが無い場合は、リハーサル時間帯にワークショップ実施</b>					

<b>実施校への協力依頼人員</b>
基本的に必要ありませんが、ワークショップ時にご担当の先生に振付を録画いただき、練習にご活用いただけるようお願いいたします。

## 演目解説

### 【あらすじ】

山あいに住む一人暮らしのおばあちゃんの家に移ってきた内気な小学4年生の智(とも)。しかし智は本当は引越してきたくありませんでした。すごい田舎だし、お化けみたいなおばあちゃんはいるし…。ある日、智がおばあちゃんの家を探検しているとどこからか声が聞こえてきました。おばあちゃんのひとり言かなと思っていたら…!?泥棒?おばけ?実はおばあちゃんの家には妖怪あまのじゃくのジャクが同居していました。智と友達になったジャクですが、最近なんだか弱ってきました。その原因は裏山の開発とそこに住まう妖怪土蜘蛛が関係していました。智はジャクを救うために裏山へ走り出しました。内気な智が山の自然や仲間たちによって、強くたくましい子どもになってゆく姿を描きます。

### 【上演にあたって】

かつて子供たちは群れて遊びを生み出し、人と人との関係も遊びの中で学び、ごく自然に身につけていったように思います。それは正に生きていく力を蓄える大切な時間。しかし今、その大切な時間を持ちにくい社会へとますます拍車が掛けられて来ているように感じます。そしてその影響は自己肯定感の低い、心の不安定な子供たちを生み出しています。そんな都会の生活を送ってきた「やだやだ」が口癖、何をやってもダメと思っているこの物語の主人公・智ですが、物凄い田舎に移ってきて、おばあちゃんや妖怪たちとの出会い、自然の中の生活体験を通して強い心が生まれ、友だちジャクの角を取り戻すために恐ろしい土蜘蛛のところへ走り出します。私たちはこの作品を通して子供達に、子供時代を子供らしくたくましく、困難にも真正面から立ち向かっていく勇氣、生きていく希望を感じてもらいたいと考えます。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

- ① 参加する子どもたちの緊張を和らげ、観劇にもどっぷりはまってもらいたいので、あまりストーリーに影響のないオープニングとエンディングに参加してもらいます。
- ② 主人公の学年でもあり、もっとも乗りがよく、楽しんでくれそうな4年生に参加してもらいます。
- ③ 楽しんで参加してもらえるように、子どもたち自信の手作りの衣装や帽子をつけてもらいます。
- ④ 出演する子どもたちが舞台と客席をスムーズに移動できる場所に座ってもらう。
- ⑤ **出演する子どもたちには、マウスシールドを配布し装着してもらいます。**

## 児童生徒とのふれあい

- ① 終演後、質問や感想を言ってもらうことも可能です。**—実施しない**
- ② 入場の時、座席への誘導を通常出演者が行いますが、先生方をお願いします。
- ③ 退場の時、体育館出口において通常出演者が見送りますが、舞台の前で手を振って**距離をとってお見送ります。**
- ④ 要望があれば、リハーサルと本番との間で、参加する子どもたちとの給食交流が可能です  
が、**出来るだけ接触をさけて別室で頂くようにします。**
- ⑤ 終演後の集合写真も可能ですが、**密にならないように気をつけます。**
- ⑥ 高学年の子は舞台道具のバラシに参加可能です。**—実施しない**